

2-4- 東京の水源、多摩川から利根川へ

東京水道は、多摩川を水源としていましたが、しばしば、湯水の危機に見舞われました。なかでも、東京オリンピックを目前に控えた昭和39年夏の湯水は、「東京サバク」などと呼ばれ、最大の危機に直面しました。制限給水が行われ、自衛隊、警視庁、米軍等の応援を受け、日夜応急給水が行われました。湯水を救ったのは、折りから進められていた利根川からの導水でした。

(出典:東京都水道局ホームページ)

昭和39年夏の湯水

災害出動による自衛隊の応援給水



湖底を見せる小河内貯水池

昭和39年8月19日、小河内貯水池の貯水量は満水時の2%にまで落ち込みました。



昭和39年 オリンピック湯水の状況

給水制限	期間 昭和39年7月～10月 最大給水制限率 50%
応急給水対策	・給水車120台出動 ・自衛隊215車両、警視庁、米軍による応援給水 ・神奈川県からの緊急分水(10万m ³ /日) ・北多摩8市(立川、国立など)より受水 ・小河内ダムでの人工降雨実験の実施 ・家庭ではパン主体の食事に、入浴・洗濯の制限
生活への影響	・消防活動への影響(消火栓の水の出悪化) ・医療活動への影響(手術できない、急患以外は休診) ・理髪店、クリーニング店、製氷会社への影響 ・プールへの注水禁止 ・給水車からの水運び、時間給水への拘束 ・魚の食中毒の続出

(関東地整調べ)

(出典:東京都水道局ホームページ)